

平成23年度 滋賀医科大学大学院医学系研究科博士課程

再生・腫瘍解析系専攻

がんプロフェッショナル養成プラン

ーがん専門医師養成コースー

学 生 募 集

本コースは、京都大学、三重大学、大阪医科大学と本学において、文部科学省平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」『高度がん医療を先導する人材養成拠点』の選定を受け、がん専門医の養成を目的として、大学院医学系研究科博士課程再生・腫瘍解析系専攻の中に、がん薬物療法医コース、緩和医療医コース、放射線治療医コース、乳腺専門医コースを設置するものです。

本コースへの応募は、大学院医学系研究科（博士課程）へ入学を志願（出願）することで兼ねます。出願資格、出願手続等は、同課程の学生募集要項に記載の内容と同じです。ただし、出願資格については、学生募集要項の記載内容に加えて、各コースとも、各専門領域の認定医または専門医の受験資格を取得していることが加わります。

出願に際しては志望する専攻を「再生・腫瘍解析系専攻」とし、部門欄にコース名を記入してください。

専 攻：再生・腫瘍解析系専攻

【がん薬物療法医コース】受入可能人員3名、コース責任者：藤山 佳秀教授

【緩和医療医コース】受入可能人員2名、コース責任者：野坂 修一教授

【放射線治療医コース】受入可能人員1名、コース責任者：村田 喜代史教授

【乳腺専門医コース】受入可能人員3名、コース責任者：来見 良誠教授

修了要件及び履修方法

所定の単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査および最終試験に合格すること。

授業科目及び単位数表

授業科目表参照。

本件に関する問い合わせ先

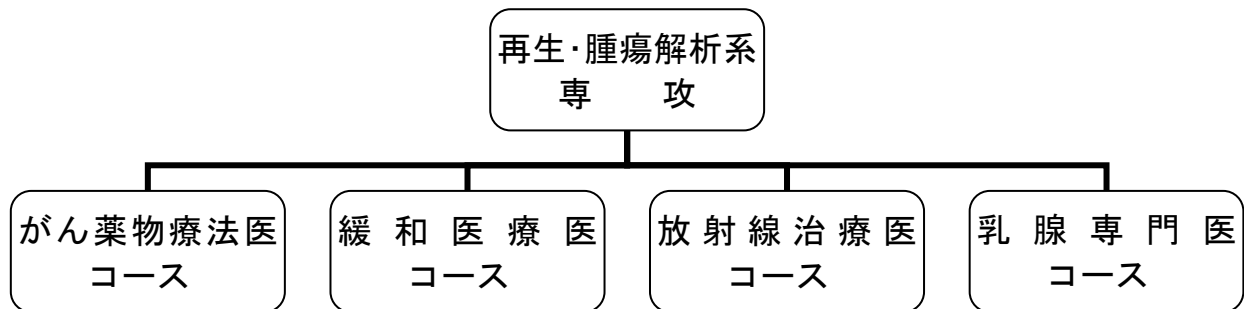
滋賀医科大学学生課教育支援係大学院担当 電話077-548-2095

【カリキュラムの特徴】

「がん専門医師養成コース」は従来の大学院の枠組みに加え、臨床の専門医獲得を目的としており、学外の病院に勤務している（社会人）医師にも受けやすい体制、内容、目的となっている。

薬物療法と緩和医療、放射線治療の専門医養成コースに加え、社会的に要請が強い乳腺についてコースを開設している。

【コースの概要】《ディレクター：谷 徹 教授》



がん薬物療法医コース（責任者：藤山 佳秀教授）

がん薬物療法医コースは、基本的には日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医のための研修カリキュラム」に則り、同学会「がん薬物療法専門医」の取得を目指す。癌薬物治療学の講義・演習・実習を通じてがん薬物治療に関する基礎的知識・技能を習得する。また、附属病院各専門領域診療科に所属してがん薬物療法を実践するとともに基礎的・臨床的研究に携わり、かつ、同腫瘍センターのコーディネートの下に、専門領域以外の癌薬物療法を実践し、がん薬物療法全般に関わる支持療法、緩和療法を習得する。

緩和医療医コース（責任者：野坂 修一教授）

治癒の見込まれない患者に対する、積極的な全人的医療に精通した医師を育成するコースである。主に全人的な痛みに対して、多職種からなる合同緩和ケアチームの一員として情報を共有でき、専門性を発揮できることを目指す。

放射線治療医コース（責任者：村田 喜代史教授）

癌の集学的治療の中で放射線治療は患者のQOLを保つ治療法として大きな役割を果たしているが、放射線治療技術そのものも大きな進歩を遂げつつある。基礎的な手法から新しい技術までの放射線治療技術全体を修得する。

乳腺専門医コース（責任者：来見 良誠教授）

乳腺の生物学、乳癌に関わる臨床腫瘍学、乳腺疾患の診断学、乳腺の外科治療、集学的診療アルゴリズム、トランスレーショナルリサーチについて講義・演習・実習を行ない、乳腺疾患に対し専門医として診療できる技術と後進を指導できる能力を育成する。

再生・腫瘍解析系専攻（がん薬物療法医コース・緩和医療医コース・放射線治療医コース・乳腺専門医コース）

平成20年4月1日

専攻名	コース名	授業科目名	授業を行う年次	単位数			備考	
				講義	演習	実習		
再生・腫瘍解析系専攻	共通	がん基礎学	1・2	2			} 必修	
		緩和ケア学	1・2	2				
		腫瘍薬剤学	1・2	2		2	} 選択	
		医療統計学	1・2	2		2		
	がん薬物療法医コース	がん薬物治療法学	1・2	6	8	6	} 必修	
		臨床腫瘍学	1・2	1	3			
		外来化学療法学	1・2			2		
		血液内科学	1・2	1	1	2		
		消化器内科学	1・2	1	1	2		
		呼吸器内科学	1・2	1	1	2		
		小児科学	1・2	1	1	2		
		皮膚科学	1・2	1	1	2		
		消化器外科学	1・2	1	1	2		
		乳腺・一般外科学	1・2	1	1	2		} 選択
		呼吸器外科学	1・2	1	1	2		
		整形外科学	1・2	1	1	2		
		脳神経外科学	1・2	1	1	2		
		耳鼻咽喉科学	1・2	1	1	2		
		女性診療科学	1・2	1	1	2		
		泌尿器科学	1・2	1	1	2		
眼科学	1・2	1	1	2				
放射線科学	1・2	1	1	2				
歯科口腔外科学	1・2	1	1	2				
緩和医療医コース	精神医学	1・2	2	4	4	} 選択必修		
	麻酔学	1・2	2	4	4			
	臨床腫瘍学総論	1・2	4	6				
	臨床腫瘍学各論	1・2		4	6	} 必修		
	がん薬物療法学	1・2	2	2	2			
	がん電磁波治療学	1・2		2	2			
放射線治療医コース	放射線腫瘍学・画像応用治療学	1・2	4	8	8	} 必修		
	臨床腫瘍学	1・2	1	3				
	高精度放射線治療学	1・2			2	} 選択		
	基礎腫瘍学	1・2	1	3				
	腫瘍診断学	1・2	2	2				
乳腺専門医コース	乳腺外科学	1・2	4	8	8	} 必修		
	臨床腫瘍学	1・2	1	3				
	がん薬物治療法学	1・2			2	} 選択		
	放射線治療学	1・2			2			

【がん薬物療法医コース】

共通必修科目 4 単位、分野科目 20 単位、共通選択科目およびコース科目から 6 単位以上、合計 30 単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査および最終試験に合格すること。

【緩和医療医コース】

共通必修科目 4 単位、分野科目 20 単位（10 単位×2 科目）、共通選択科目およびコース科目の必修と選択から 6 単位以上、合計 30 単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査および最終試験に合格すること。

【放射線治療医コース】

共通必修科目 4 単位、分野科目 20 単位、共通選択科目およびコース科目の必修と選択から 6 単位以上、合計 30 単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査および最終試験に合格すること。

【乳腺専門医コース】

共通必修科目 4 単位、分野科目 20 単位、共通選択科目およびコース科目の必修と選択から 6 単位以上、合計 30 単位以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、本大学院が行う博士論文の審査および最終試験に合格すること。